

「子どものソフトスキル」に関する意識調査結果

一般財団法人日本生涯学習総合研究所は、弊財団の別調査に協力した小学校高学年（4-6 年生）の子どもを持つ保護者を対象に「子どものソフトスキル」に関する意識調査を実施いたしました。

ソフトスキルとは、非認知能力とも呼ばれ、物事に対する考え方や取り組む姿勢、行動など、日常生活・社会活動において重要な影響を及ぼすスキル・特性のことを指します。本調査報告書では、これらの特性・スキルを総称して「ソフトスキル」とします。

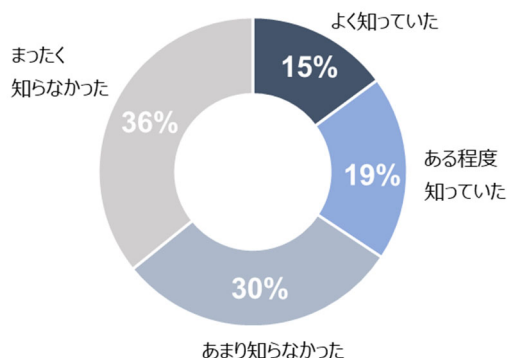
（回答者数：67 名（29 歳-60 歳、男性 32 名、女性 35 名）、調査日：2024 年 5 月 2 日から 5 月 8 日まで、調査方法：インターネット、調査委託先：株式会社アスマーク）

調査結果の概要

- ・ ソフトスキルの認知度は 3 割程度にとどまった。
- ・ 認知度は低い一方で、「子どものソフトスキル育成に関し重視しているか」を質問したところ、7 割の保護者が「重視する・やや重視する」と回答した。
- ・ 実際の取り組みとしては、「習い事、前向きな声掛け、子どもに決定させる」など、日常生活から意識をもって取り組む家庭がある一方で、「やってみたいと思うが何をしたらいいのかわからない」という回答も多かった。
- ・ 「子どもに備わってほしいソフトスキル（複数回答）」について 2 つの設問で質問し、「自分から行動する（66%）、自分の気持ちをコントロールする（57%）、根気強さ（46%）」および「問題解決力（57%）、コミュニケーション能力（48%）、自己肯定感（36%）」がそれぞれ上位を占めた。
- ・ 「子どもの資質を知ること、保護者・子ども本人の心がけが変わったり、何か行動を起こすきっかけになると思うか」という質問には保護者の 9 割が「きっかけになると思う」と回答した。

■ソフトスキル、非認知能力等への認知度（単一回答）

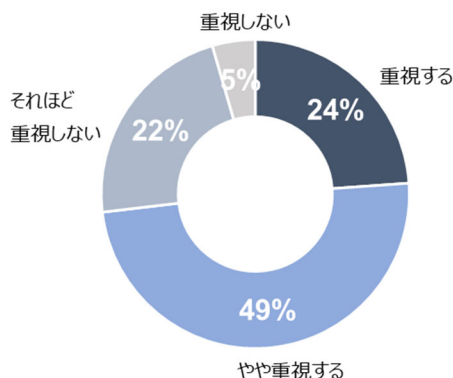
昨今、ソフトスキル、非認知能力等と呼ばれる特性やスキルが注目されていることを知っていましたか？（1 つ選択）



ソフトスキルについては、本報告書冒頭にある定義を説明した上で認知度について質問したところ、「よく知っていた・ある程度知っていた」の回答は 3 割強で、6 割以上の保護者が「あまり知らなかった・全く知らなかった」と回答した。

■子どものソフトスキル育成への関心（単一回答）

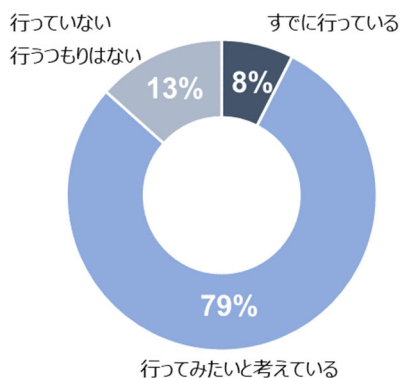
お子様のソフトスキルの育成を重視していますか。（1つ選択）



7割以上の保護者がソフトスキル育成について「重視する・やや重視する」と回答した。

■子どものソフトスキルを伸ばす取り組みについて（単一回答）

お子様のソフトスキルを伸ばす取り組みを行っていますか。（1つ選択）

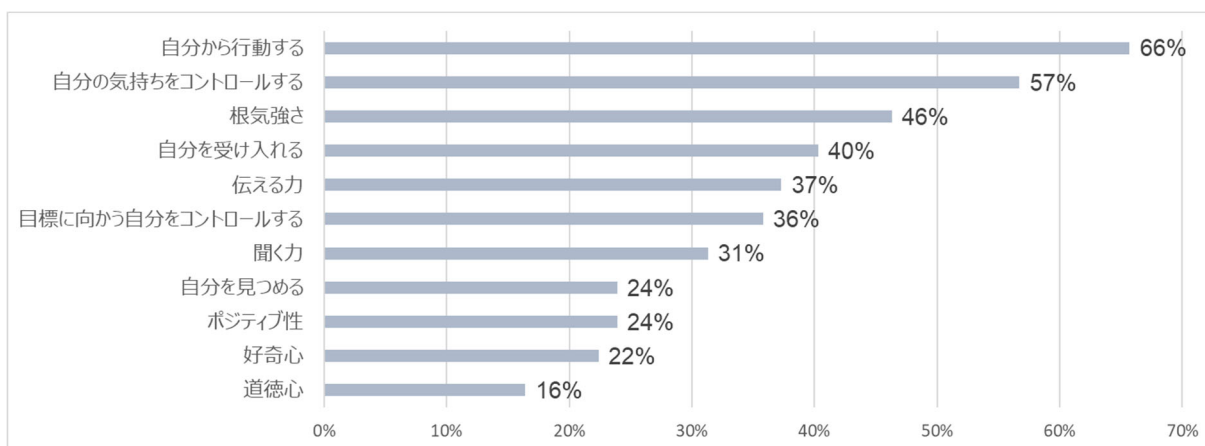


■子どものソフトスキルを伸ばす取り組みを「すでに行っている」「行ってみたいと考えている」と回答した場合、どのような取り組みを行っているか、または行ってみたいか。（自由回答）（n=58）

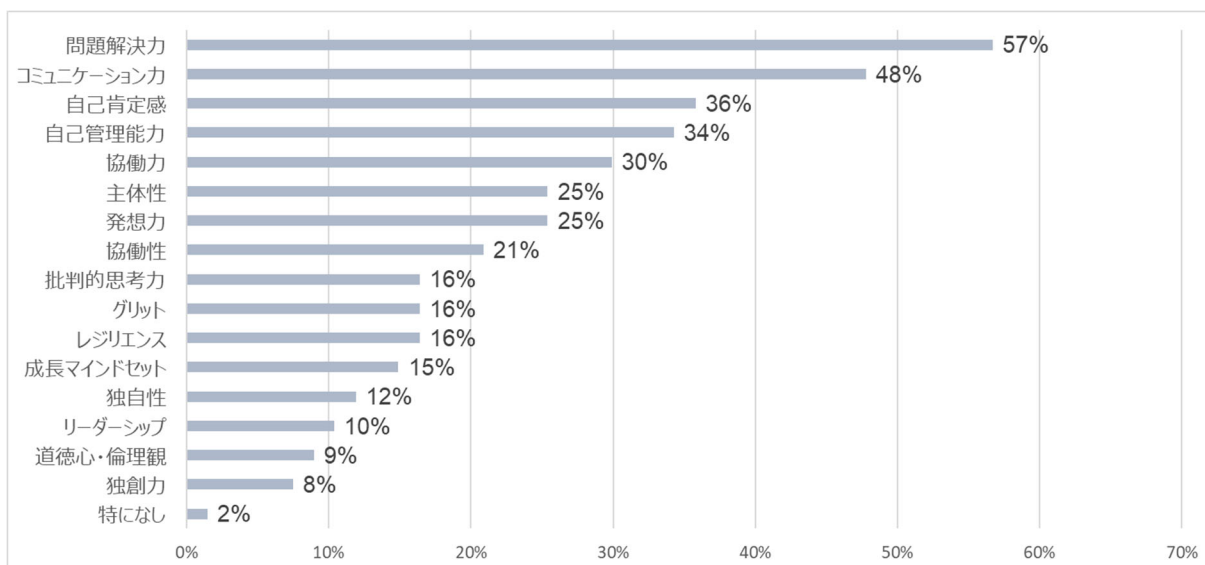
<実際の取り組み>
できないことにフォーカスするのではなく、できることをほめる
できるだけ本人に選択させるようにしている
子供の意見を聞き、共感するようにしている
得意苦手を可視化して親子で共有することで、学習に役立てている
人と触れ合う機会を増やしている
子ども自身に試行錯誤させて、探究させること
自分で考えさせる。「なぜ？」と思わせる
新しいことに挑戦させる
<実践してみたいこと>
スケジュール管理や計画など自分できることを実践させてみたい
子ども自身が前向きになる声かけなど
習い事、スポーツ、探究心を育む活動などへの参加
家の中で日常的にできることがあればやってみたい
実践してみたいが、具体的にどういう取り組みをしたらよいのかわからない
実践してみたいが、漠然としていてわからないので知りたいと思う

※回答は一部抜粋

■子どもに備わってほしいと思うソフトスキル①（複数回答 5つまで）



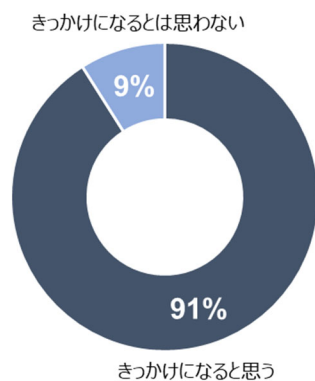
■子どもに備わってほしいと思うソフトスキル②（複数回答 5つまで）



問題解決力(問題を見つけ、自分で考え解決策を導き出す力)
批判的思考力(主観・客観、先入観にとらわれず、根拠に基づき熟考し、俯瞰的な視点から物事を考えることができる力)
協働性(環境や立場の違う複数の他者と互いに尊重しあいながら協力し、同じ目標や目的にむかって物事を達成することができる力)
コミュニケーション力(他者を理解すると同時に、適切な表現方法を用いて自分の考えを伝える力)
主体性(自分の意志や判断によって責任をもって行動する力)
自己管理能力(目標に向かって自分を律し、計画・遂行する力)
独創力(独自の視点から発想し、物事を作り上げようとする力)
自己肯定感(自分の在り方を積極的に評価できる感覚)
道徳心・倫理観
発想力(物事を頭のなかで関連付けたり、関連性を思いついたりする特性)
独自性(既存例にとらわれない新しい視点、新しい考えや発想への意欲)
協働性(チームワークを目指す姿勢、意欲)

①②の回答から保護者は子どもに「自分で行動する」姿勢を求めていることがわかる。
一方で「道徳心・倫理観」は社会生活において大切なソフトスキルであるが下位にとどまっている。

■子どもの資質を知ること、保護者・子ども本人の心がけが変わったり、何か行動を起こしたりするきっかけになると思うかどうか（単一回答）



「子どもの資質を知ることにより、保護者や子ども本人の心がけの変化や行動への動機へのきっかけとなる」回答はした保護者は9割を超えた。

以上